

トラウマ癒やすアート

英国人画家、神戸で個展



万華鏡の目 P100

ビートルズの歌と「不思議の国のアリス」の世界が合体した作品「万華鏡の目」の前で＝神戸市中央区山本通3

神戸在住の英国人画家し、拠点としている。ブライアン・ジッチ・ロ アクリル絵の具を多用し、なめらかな質感を構える旧神戸移住センター内のアート施設「COACH HOUSE」で、百が、神戸では海と山、空六点多の作品を集めた個展を開いている。一九五二年生まれ。古くを用いた立体作品また典的な水彩技法とテキストで、奔放に制作する。「神戸にきて、表現の自由を学んだが、本格的な画家活動は、日本人女性と結婚して来日した一九九四年から。三年前、長野県の山村から神戸に居を移

の絵の具のチューブで「生け花」を作って見せたりもする。「米国の影響で世界中がマクドナルド化しているが、日本文化の精神は素晴らしい」と、伝統文化を現代アートに、翻訳する役割をも背負って出る。「絵画の世界の九割は絵の中にある。あとの一割は見る人が作る」そう語る不思議の国の住人、ローレンツが今回、特に意識したのが震災の

被災者の存在だという。自身も九二年にロンドンでビル爆発事故に遭遇し、九死に一生を得た。今も物音に脅えるなどの後遺症に苦しむ。

「アートにはトラウマを癒やす力がある。私の作品を通して、神戸の人にも生きる希望を感じ取ってもらえれば」

(三上喜美男)

◇

五日まで。火曜休館。
078・2330・8707